



なんよう



No.110
2020.7.1

新学部長就任 挨拶



初夏の候となり、緑がまぶしい季節となりました。自然は私たちとは関係なく淡々と移ろい行きますが、

コロナ禍の中、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

さて、今年度より経済学部長を拝命いたしました榎澤と申します。よろしくお願ひいたします。学部の状況をご説明して、ご挨拶とさせていただきます。

現在、授業はすべてオンラインで行っております。大学がCISCO社と数百万円で契約を結び、オンライン授業の体制を整えました。私たちも初めての経験で、当初は音が出なかったり、画面が止まったりして、試行錯誤の連続でしたが、5月末になってようやく慣れてきました。学生は大変積極的に対応してくれており、大きなトラブルは発生しておりません。ただ、一日中、パソコンの画面を見ながらの受講となりますので、眼精疲労や疲れを申し出る学生がおります。また一方では、通学の時間が必要ないので便利だとか、大学に行くのがおっくうだが、これだと良いといった感想を言う学生もおります。いずれにしても、これから先は、今までの対面式授業形態だけでなく、このようなオンライン授

経済学部長 榎澤 秀木

業も加味した形での授業が主流となっていかもしれません。何はともあれ、まずは、無事授業ができておりますことをご報告申し上げます。

とはいえ、やはり学生の姿が見えないキャンパスは寂しいものです。とりわけ、新入生と4年生には心を痛めております。新入生は、高校の卒業式も中止、大学の入学式も中止となり、お祝いの言葉をかけられることもなく、先輩からサークルの楽しそうな勧誘話を聞くこともなく、友達を作ることもできずに、自宅やアパートで「大学生活」を始めております。4年生は、なれないオンライン面接に四苦八苦しており、採用数が減るのではないかとといった心配も消えることはありません。

学生には、新入生や4年生だけでなく、2・3年生にも、「コロナ禍で勉強できなかった」と言い訳するのではなく、「コロナ禍でも勉強は続けた」、あるいはむしろ「コロナ禍だからこそ、分かったことがあった」と言えるように、日々勉学に励むよう、叱咤激励しております。

どうか、このような時だからこそ、先輩諸氏の励ましと楽観論を後輩たちにかけてやって下さい。幾多の試練を経験された皆さんの言葉は、おそらく学生の心に素直に染みこむことでしょう。どうぞ、よろしくお願ひいたします。



令和2年度 楠葉同窓会総会について

楠葉同窓会会長

江口 洋一

佐賀平野は麦秋の時期であり、各地で麦刈りが進められています。時節の変化は着実に進んでいます。時節の変化は着実に進んでいます。時節の変化は着実に進んでいます。Covid19の影響で、いまだキャンパス内への学生の立ち入りが禁止されており、学生にとっての「五月晴れ」はいまだ到来していません。

会員の皆様方にはご健勝にお越しの事と思っております。

この機関誌を手にする頃には通常の生活に、これまでと違うスタイルの日常であるかもしれませんが、戻っていることを願っています。

ところで、例年5月末に全国の支部長さん・県内の地区長さんにお集まり頂き開催していただきました総会は、本年度は書面決議により実施させて頂きました。

結果は、支部会・地区会の32名のうち24名の方より賛意を頂きましたので議案は承認されました。ご協力頂いた方々には感謝申し上げます。

総会資料についてはHPにて報告させて頂きませんが、令和元年度の事業概要及び令和2年度の事業計画案については以下の通りであります。

1. 令和元年度事業

- ・卒業生からの会費納入については、3年毎に会費未納会員に対して納入依頼を行っており、本年度は97名、900千円の納入があった。未納会員約6,000名に案内文を発送しておりその経費は600千円程度となっている。会費納入会員の拡大を図るための事業としてはコストパフォーマンスは十分とはいえないが、住所変更などの情報収集と、会員との繋がりを維持するものとして今後とも3年に1回は実施していきたい。
- ・交流会・懇親会については、佐賀大学関係者17名、同窓会66名、学生67名の参加であった。今回は、在学生により近い年代のOB・OGの参加を促すために30代の県内就職者に案内をしたが残念ながら参加者が少なかった。先生方の評価も高く、学生の期待もあることから、

若い同窓生を増やす工夫をしながら継続したい。

- ・3カ年事業として取り組んだ「40周年記念誌」については、1,000部ほど印刷し、すでに終身会員及び各支部・地区長に送付している。HPで紹介し、希望者には無料で送付している。今後は各支部会・地区会の開催の折には紹介をしていきたい。

2. 令和2年度事業計画案

- ・「40周年記念誌」の発刊が終了しましたので、特別会計からの繰入れは行わない。経費節減と事務の効率化に努める事にする。
- ・同窓生からの会費納入の促進については、前年度の納入状況や、年代別・会費の種類別（1年・10年・終身）の納入状況の現状を分析し、より納入し易い会費の在り方について議論を進めたい。
- ・名簿管理については、各支部・地区会で把握されている情報や、クラブ活動のOB会などで把握されている情報等との連携を強化する方向で検討したい。

3. 交流会・懇親会について

学生の期待もある事から実施の予定をしておりましたが、「緊急事態宣言」解除後も大学では継続して「遠隔授業」が行われており、三密となるイベントは避けざるを得ないと思われ。このために、これに代わる方法での学生支援を検討していく事にしました。現時点では具体的方法は未定ではありますが、学校側と協議しながら進めていきたいと思っております。どうかご理解・ご協力お願いします。

総会資料については、HP（佐賀大学同窓会・楠葉同窓会）に掲載しております。

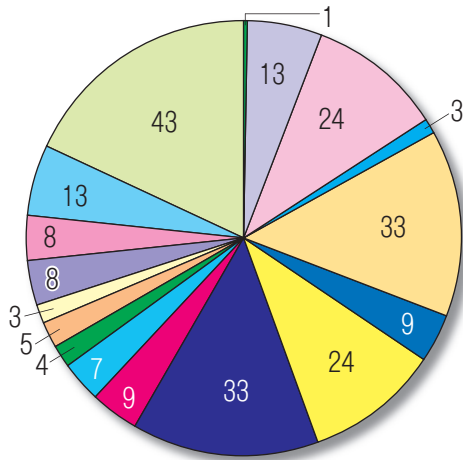
以下の「閲覧パスワード」を入力してご覧ください。

「閲覧パスワード Nanyoudousoukai2020」

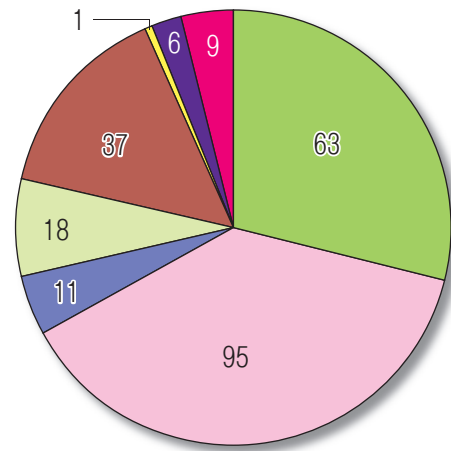
ご意見などありましたら、HP「お問い合わせはこちらから」から送信してください。

令和元年度 経済学部就職状況

産業分類別就職者



地域別就職者



経済学部就職委員長 松尾 陽好



本学部学生の就職活動に際し、楠葉同窓会の皆様には日頃より相談、アドバイス、指導等様々なご支援を頂き、心よりお礼申し上げます。また、毎年恒例となっている楠葉同窓会との交流会も、学生の就職への意識づけとして貴重な機会となっており、重ねて感謝申し上げます。

本年3月の卒業生たちの就職はここ数年の好調な状況を反映して、「就職率A（就職志望者の就職率）」で前年を2ポイント近く上回る99.2%と過去5年間で最も高い数値となりました。これは文科省が発表している大卒98.0%を上回る数値です。また、コンスタントに志望者が増えている公務員関係についても43名と順調に推移しています。授業が終わった6校時以降に公務員講座に出席して、彼らが日々努力を重ねた結果だと思えます。

このように2019年度に関しては極めて良好な結果となりました。しかし、皆様ご承知の通り、新型コロナ・ウイルスの影響で現4年生（2021年卒）の就活は極めて厳しい状況にあります。大手企業の採用活動も1か月以上遅れており、その分内定率も例年より低くなっています。説明会の中止やWeb面接等、当初想定していなかった事態に彼らは直面しています。現3年生（2022年卒）の時はもっと大変な状況になるかもしれません。

このようなときに彼らの大きな支えになるのは、先輩方との繋がり、「絆」だと思います。今後とも本学部生の良き相談相手としてご指導、ご支援いただきますようお願い申し上げます。

【楠葉同窓会 – 役員だより –】

「佐賀大学美術館へおいでください!!」

経済学部経済学科卒 松尾 和俊 [佐賀大学美術館勤務]



4月より美術館勤務を拝命いたしました松尾と申します。

ところで、みなさん美術館をご利用される機会はどれくらいありますか？ 統計上は全国民のうち4人に1人が年に一度美術館へ足を運んだことになるそうです。私はと申しますと振り返れば年に5～10回くらいは博物館も含めたミュージアムへお出かけしているようです。もっとも、ゴジラ展、ジブリ展、ガンダム展（正確には「富野由悠季の世界」）などミーハーな企画展が目当てのことが多いですが…（笑）

さて、今年は新型コロナウイルスの影響で6月現在まで閉館中であり、正確な開館時期も未定のままです。多くの方々が大変な状況を凌いでおられることと思いますが、一日も早くいつもの生活に戻るのを願うばかりです。

美術館では学芸員共々秋の特別展に向けて準備を進めており、また来年度は多くの方に楽しんでいただけるようなビッグな特別展を企画、検討中でございます。

どうぞ、お気軽に佐賀大学美術館へおいでください!!

そして、よかったら美術館への寄付などご検討いただければ幸いです。

※美術館では新型コロナウイルスに奔走される医療従事者へ感謝の気持ちを示す「ブルーライトアップ」を実施いたしました。



学内スケッチ



「エシカル消費」啓発ポスターを佐大の学生さんと作成しました。

経済学部経営学科卒 坂田 智宏 [佐賀県地域交流部国際課勤務]

「エシカル消費」を存じですか？「倫理的消費」とも言われ、エコ商品、リサイクル商品、地産地消商品など、人や社会、地球環境に配慮して作られたものを積極的に購入・消費をしようというものです。

佐賀県では、県民一人ひとりが「エシカル消費」について理解を深め、身近なところで、できる範囲で、自ら考え、行動をおこすきっかけづくりとするため、佐大の学生さんと啓発ポスターを作成しました。

このポスター制作のはじまりは、昨年11月に、若者目線で消費者問題の啓発に取り組んでもらう学生のリーダーを育成する目的で県が開催した学生向けの講座です。そこでのグループワークで「エシカル消費」を啓発するポスター制作の提案がありました。この提案実現のため、従来から当課と定期的な意見交換をしていた佐賀大学経済学部の岩本諭教授のゼミ生の皆さんと、ポスターのコンセプトや図柄などについて議論を重ねて、令和2年3月にポスターが完成しました。

このポスターでは、「エシカル消費」の例として、次の3点をあげています。①必要な分だけ買って食品ロスを減らす ②エコバックやマイボトルを使う ③プラスチックの分別をきちんとする。

ポスターは、県内の公立図書館やスポーツ施設等の他、県内を走る路線バスの車内にも掲載しています。このポスターをご覧になって、一人でも多くの方に「エシカル消費」を実践いただければ嬉しい限りです。

**魚が食べられなくなる？
買い物のしかたで未来を変えよう！**

「エシカル消費」をやってみよう
「エシカル消費」とは、社会問題の解決を考えた新しい消費のカタチ。人や社会、環境に配慮して作られたものを積極的に購入・消費することです。

**できることから
はじめてみよう**

- 必要な分だけ買って食品ロスを減らそう！
- エコバッグやマイボトルを使おう！
- プラスチックの分別をきちんとしよう！

認証マークの商品を買ってみよう！

国連機関の調査によれば、**世界の水産資源の75%が** **危機的な状況といわれています**

参考ウェブサイト
こちらをご覧ください。
消費者庁ホームページ
<http://www.caa.go.jp/>

このポスターは、佐賀大学経済学部岩本ゼミナールの学生さんたちと一緒に作りました。

佐賀県
<http://www.pref.saga.lg.jp/>



社会人14年目を迎えて「佐賀と佐賀大学と私」

経済学部 経営・法律学科卒 有吉 一峰

生まれも育ちも佐賀県である私ですが、高校時代に希望していた進路の中に佐賀大学はありませんでした。

決して都会とは言えないこの地域で生まれ育った私にとって、県外は憧れであり、卒業後は県外の大学に行きたいと考えていました。

そんな私がいざ迎えた大学受験。前期に見事に失敗した私はセンター試験の得点の兼ね合いもあり、佐賀大学を受験し、2003年に経済学部経営・法律学科に入学しました。熱望していた県外への進路が叶わなかった私ですが、結果から言うと、私にとって佐賀大学での4年間は何物にも代えがたいかけがえのない時間になりました。学生として優秀だったとは言えませんが、アルバイト、サークル活動、授業、ゼミを通じて様々な経験ができ、知り合った友人たちとは卒業から13年たった今もなお交流が続いています。

卒業後、私はリコージャパン株式会社に入社しました。リコージャパンはリコー製複合機やプリンターなどの入出力機器や、ICT関連商品の販売・サポートをメインの事業とする会社です。学生時代は馴染みが薄かった会社でしたが、リコーの創業者の市村清が佐賀県の三養基郡の出身であることを知ったことがきっかけで、就職試験を受け、入社するまでに至りました。

リコージャパンには、本拠地制度という人事制度があり、働きたい都道府県を本拠地として登録することができ、好きな地域で働くことができます。私は県外で10年働いた上で、自らの意志により佐賀で働くことを選びました。

縁があり、佐賀大学も担当させていただくことになり、懐かしさを感じながら仕事をしています。

現在、営業職として働く一方で、休日は3児の父として子育てに奔走しています。趣味はサッカー・フットサルで、30歳の半ばを過ぎた今でも全力で取り組んでいます。平日の帰宅後や休日のプライベートを全力で充実させようとしている現在の生活は、学生時代、講義の合間にアルバイトやサークル活動に全力で取り組んでいた生活によく似ているなど感じる場合があります。やはり、佐賀大学での生活は私の原点なのでしょう。

微力ながら、母校である佐賀大学に貢献できるのではないかと思います。本文を書かせていただきました。今後も地域や母校に貢献できることを模索していき、積極的に取り組んでいきたいと思っております。





卒業生の近況報告



佐賀大学職員になって

平成28年経済学部経営学科入学 佐賀大学総務部総務課 小川 智弘

はじめまして。本年度より佐賀大学職員として採用されました総務部総務課の小川と申します。楠葉同窓会の皆様、どうぞよろしくお願いたします。

簡単ではありますが、自己紹介をさせていただきます。出身は佐賀県江北町で、平成28年に佐賀大学経済学部経営学科に入学しました。趣味はバスケットボールで、今でも地元の大会等のお手伝いもしています。

学生時代は、そのバスケットボールとアルバイトと時々勉強という人間であったため、あまり優秀な学生ではありませんでしたが、担当教員であった野方先生、平地先生には大変お世話になりました。この場を借りて改めて感謝申し上げます。

さて、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、多方面にて、その影響を受けた方は少なくないのではないのでしょうか。私自身、大学の学位授与式が中止となり、多くの大学の友人と挨拶もできないまま、新社会人としての一步を踏み出しました。友人からの話やニュースを見ていると、入社式自体が延期となり数か月の間時間ができる、内定が取り消しになるといったより深刻な状況に直面している方もいることを知り、他人事ではないと感じる部分も多くあります。私自身の影響といえば、新人研修の延期程度の最小限の延期にとどまったため、比較的、通常と同じ環境下にいることができています。これはありがたいことだなとつくづく感じています。

続いて、私の大学での業務についてですが、少しだけ紹介したいと思います。総務課ですので、業務内容が多岐にわたってはいますが、主な業務としては、代表電話での応対、公印の管理、主要会議の準備から議事録作成まで全般、入学式等の式典の準備などがあります。また、同課の方々には大変良くしていただき、仕事についても丁寧に教えていただいています。まだまだ不慣れなことも多く、失敗して落ち込むこともありますが、その都度、成長できているなど実感しています。いい環境で学ばせてもらっているなど感じるばかりです。

最後に、昨今の社会情勢で大変な時期ではありますが、この時期を乗り越えて、平穏無事な暮らしに早く戻れることを願っています。同窓会の皆様におかれましても、ご自愛ください。私も早く1人前の社会人となれるよう、日々精進していこうと思います。



～恋人のような仲間との出会い～

経済学部 経営学科 内田 篤志

みなさん、はじめまして。経済学部経営学科の内田と申します。私は平成30年度に佐賀大学に入学しました。今年でもう3年目になり、大学生活の半分が過ぎたのだと思うと、ほんとうにあっという間だなと感じております。今回、学生生活について執筆させていただくことになりましたので、私が所属している陸上部での活動について紹介させていただきます。

私は陸上の中でも長距離パートに属していて、人数は少ないですが、先輩、同級生、後輩それぞれに対する壁がなく、本当に仲良く活動しています。普段の練習からみんなで競い合って、大会では応援し合い、日々切磋琢磨しています。また陸上以外の活動では、学祭などの行事で協力して出店し、みんなで盛り上げ全力で楽しんでいます。

ここまでは、どこの部活やサークルでもあると思いますが、一緒に過ごしてきた時間とその濃さがとても特別なものです。みんなで一緒に走った後、みんなでご飯に行き、同じものを食べた後、方向が同じ人同士で話をしながら帰路につく。部活がない日は、休めばいいのに仲間と自主練習をしたり、一緒に温泉に行き、メンバーがバイトをしている飲食店にご飯を食べに行ったりと、ほぼ毎日顔を合わせるような間柄です。もう恋人なんじゃないかと思えるような特別な仲間達と出会えたのが、佐賀大学陸上部です。

3年になった今年が私の陸上部として全力で活動できる最後の年になります。今現在、新型コロナウイルスの影響により、部活動が禁止となっていて部員のメンバーと直接会うことができません。本来だったら、春合宿や夏合宿をして、自分たち3年生が経験してきたことを後輩たちにも経験させてあげたかったという思いはあります。しかし、できないことを悔やんでも仕方ないので、今は月一でオンラインミーティングをして目標を話し合ったり、時計についているGPS機能を使い、会えなくても、日々の練習量を部員同士が共有できるようにすることで、みんなのモチベーションを保っています。12月の島原駅伝があることを信じて、各々が走る場所や時間帯を考えて活動しています。最高の結果を出し、「かわいそうな代」と言われるのではなく、「最高の代」だったといわれるように一丸となって頑張っています。



支部だより

神埼地区会に参加して

9月28日(土)に神埼 割烹「菊水」で開催された。古賀季夫会長(50卒・経済)の挨拶の後、会員である長崎県立大学学長 木村努(47卒・農学部)氏の「最近の大学改革について」の講話があった。项目的には①就学支援としての実務型教員の割合と教育の質の保証、②入試改革と高大連携、③地方大学の課題として「2040年問題」・地域振興と大学・グローバル人材の育成と企業の海外進出支援等貴重なお話が聞けた。

この日は、たまたまラクビーの「日本」対「アイルランド」試合日であった。会が始まる時点では日本が負けていた。参加者は半ばあきらめの心境であったと思われるが、木村氏の講話が終了した時点で日本の逆転勝利が報告され一気に会場の雰囲気や和んだ。そのまま交流会に移行し、会員相互の談笑も盛り上がった。また、会員による尺八(花田健児・47卒・農学部)や三線(古川裕紀・H10卒・理工学部)の披露もあった。古川氏からは県議会議員

への選挙に際し、地区同窓生の支援が大きかったことに感謝を述べられた。今後の活躍を祈念したい。

経済学部からは、吉岡光晴(39卒・文理)・古賀季夫(50卒・経済)・多良寛国(57卒・経済)・管祐亮(H12卒・経済)が出席された。地区会に参加することになって、同窓会の終身会員となりましたとの報告もあり、大変感激したところである。

江口 洋一(経済・昭44入)



福岡支部 全学同窓会に参加して

10月18日(金)西鉄イン福岡で第22回の地区会が開催された。隔年の開催であるが来賓として出席するのは3回目である。実は過去に福岡市に勤務していた時代があり、当時より清村氏(42入・経済)には大変お世話になっており、会員として参加したこともある。

毎回50名近くの参加者で賑やかな会である。最近では地区会のHPも作成され、会員同士の絆の醸成にも工夫をされている。『たて糸とよこ糸で、織りなす、佐大の人間模様』掲げられる標題も素晴らしい。

また、会員の活動報告もされている。会員が発行された単行本の紹介があった。

・「朝焼けの三瀬街道」信念を貫き通した男

江藤新平 池松美澄(39入・文理)

・「百姓組頭・井上克次」唐津街道、筑前竹槍一揆に殉じた男たち 平木俊敬(44入・経)

楠葉同窓生の参加者

田中宏(30入・文理)、竹中久(34入・文理)、中野

慎一(34入・文理)、末永哲人(36入・文理)、楠田幹人(37入・文理)、白石豊彦(37入・文理)、深山晃一(39入・文理)、峯和彦(41入・経済)、大野利信(42入・経済)、清村克行(42入・経済)、大田幸生(43入・経済)、成富牧男(43入・経済)、平木俊敬(44入・経済)、岩永茂(44入・経済)、酒井龍彦(45入・経済)、香北宏一(45入・経済)、福田美信(46入・経済)、大石純夫(47入・経済)、荒木秀俊



(49入・経済)、鶴田隆之 (50入・経済)、税田健司 (50入・経済)、大里富重 (53入・経済)、井手清勝

(59入・経済)、井上和明 (03入・経済)

江口 洋一 (経済・昭44入)



東海支部 (不知火会) 総会に参加して

11月10日(日)晴れ 名鉄グランドホテルにて開催されました。

名古屋駅に下車するのは40年ぶり、デザインにこったおしゃれな建物が目に入ります。

東海支部総会今年の参加者は16名、我々を入れて22名。前回 (2017) より増加したそうです。この特徴は理工学部出身者が多いことです。東海という土地柄を感じます。

会は、秋吉支部長 (経済出身) の挨拶から始まり、出席者の全員が演台に立って話す形式に進みます。理工分野の専門的な話題をユニークに語る人、朴訥に語る人、そして、経済出身先輩の学生運動の話など、和気あいあいの中和やかに進行します。

遠い東海の地で、これ程母校を愛しておられる



方々に触れ、我々本部は今まで以上に頑張らねばと思いつつ幸せな時間を過ごしました。

荒木 昌史 (経済・昭51入)



伊万里地区会に参加して

11月30日(土)午後2時から伊万里公民館で開催された総会・交流会に参加しました。案内をしている会員は150名程度で、当初は50名程度の参加であったが6年目である今回は30名の参加であった。開催場所、会費、開催時間、出し物、お土産品などに工夫が凝らされている地区会である。(写真は伊万里分会となっているが?)

会員発表は山本正人 (理工57卒) 氏による講演で、パワーポイントを利用した「海外へ、そして、インドへ……飛びました」の演題で行われた。非常に興味の湧く話で面白かった。

恒例のハーモニカ演奏も素晴らしいものであった。いまりハーモニカクラブ清香会のメンバー10人の内7人が佐賀大学卒であるとのことで、当日は4人が演奏された。最後は演奏に合わせて全員で「ふるさ



と」を歌い盛り上がった。

楠葉同窓生の参加 (卒)

東嶋陽一 (S63)・佐々木慎二 (H8)・徳永圭太 (H8)

江口 洋一 (経済・昭44入)



鹿児島支部定例会に参加して

1月18日(土)「レクストン鹿児島」で開催された。例年同じ時期に開催されており出席者も15名前後である。顧問の竹下威氏 (S29卒 文理・法)、支部長の上田耕平氏 (S39卒 文理・物理) のお二人は

長年支部の活動に尽力されるとともに、本部同窓会の活動にもご支援いただいている。

不知火寮「巻頭言」・学生歌で氣勢を上げた後に、出席者全員による自己紹介・近況報告がなされた。

中でも、少林寺拳法の指導をされている方から、母校の学生が九州大会で優勝し、「佐賀大学の名」をあげたことが報告された。全員拍手喝采し愛校心を高めることになった。

その他の楠葉同窓生は、増田 博（S42卒 文理・法経）、黒木潤二（S54卒 経済・経済）、本重人（S55卒 経済・経済）、瀬戸口 浩（S61卒 経済・経営）、加治木隆一（S63卒 経済・管理）であった。

江口 洋一（経済・昭44入）



関西支部総会に参加して

令和2年2月8日に開催された関西支部の出席は2度目であったが、大阪駅での出口を間違えスマートフォンを活用もままならず通りすがりの人に訪ねて、やっと開始ぎりぎりの到着となり、記念写真撮影に収まることができた。

今回は新型コロナウイルスの影響もあってか、前回よりやや少なく40名の参加であった。その内、楠葉同窓生は文理が5名、経済が6名であり、昭和28年文理卒業生である陶山良夫大先輩も出席されていた。

総会では、支部としては最初に設立された文理学部同窓会関西支部の歴史と伝統を踏まえ、会則を制定し、隔年開催から今後は毎年開催されることが決議された。世話役は大変でしょうが、今後の益々の活発な支部活動を期待したいし、同窓会本部としても支援をしていきたい。



来賓として兒玉新学長も参加された。各同窓会会長も全員が出席し、全員ひな壇で紹介された。

会食・歓談では関西の人ならではの温かい雰囲気の中に自己紹介が一人ずつ行われた。「不知火寮」卒業生からは、寮生の同窓が上梓した『「百姓組頭・井上克次」唐津街道、筑前竹槍一揆に殉じた男たち 平木俊敬（44入・経）』の紹介と販売も行われ、同窓生同士の強い絆が感じられた。

楠葉同窓生の参加者（卒年）

文理・陶山良夫（S28）・榎田松次（S41）・森七郎（S41）・小柳久嗣（S43）・平尾一彦（S44）
 経済・鶴田敏郎（S49）・濱元逸郎（S49）・大野嘉彦（S55）・森公義（S55）・赤水宏次（S58）・加島明彦（S58）

江口 洋一（経済・昭44入）

唐津地区総会・講演会に参加して

令和2年2月8日(土)晴れ、唐津市志道公民館で開催された。

近くに唐津城（小笠原藩）や、旧唐津銀行（辰野金吾記念館）があり、城下町の風情も多く残る所である。

参加者は、有朋会（教育学部出身者）が多い。私たち同窓会本部役員6名を含み28名であった。

総会は、司会の宮崎恵司氏、旧会長（当日は現会長）の牛草寛志氏や、新会長の滞りない説明で進行的した。その後講演会へと移る。

「地域の構想力と学びについて」の題目で、金獄栄作（農学部卒）氏の話があった。

これが地域愛あふれた、実に素晴らしいもので

あった。

唐津最高である。

楠葉同窓会副会長 荒木 昌史（経済・昭51入）



事務局日誌 (楠葉同窓会)

- | | | | |
|------------|---------------------------------|------------|---------------------------------------|
| H31. 4. 03 | 3～4 全学部 新入生オリエンテーション | 10.26 | 楠葉同窓会「交流会・懇親会」/経済学部4号館・佐嘉神社記念館 |
| 08 | 楠葉同窓会 会計監査 | 30 | 佐大同窓会 キャリアデザイン講座/㈱ヤマコ 黒木 康彦 氏 (経済学部卒) |
| 22 | 楠葉同窓会「役員会」/「菱の実会館」多目的室 | 12.11 | 佐大同窓会 キャリアデザイン講座/佐賀県庁 宮崎 咲江 氏 (農学部卒) |
| R 1. 5. 20 | 楠葉同窓会「役員会」/「菱の実会館」小会議室 | 18 | 経済学部との意見交換会・懇親会/「菱の実会館」多目的室 |
| 25 | 楠葉同窓会「総会・懇親会」/アパホテル『若楠ホール』『銀座亭』 | R 2. 2. 19 | 楠葉同窓会「役員会」/「菱の実会館」多目的室 |
| 7. 04 | 楠葉同窓会「役員会」/「菱の実会館」多目的室 | | |
| 31 | 楠葉同窓会「役員会」/「菱の実会館」多目的室 | | |
| 8. 22 | 楠葉同窓会「役員会」/「菱の実会館」多目的室 | | |
| 10.01 | 楠葉同窓会「役員会」/「菱の実会館」多目的室 | | |
| 16 | 楠葉同窓会「交流会・懇親会実行委員会」/「菱の実会館」小会議室 | | |

本部便り

会費納入のお願い

楠葉同窓会の運営経費は、会員の皆様からの会費によって賅われています。

会報「なんよう」(年1回7月発行)をご覧いただければ、県内外の同窓会活動を知っていただけるものと思っております。

身近に同窓生の集まり等もなく、参加する機会がない方にとって、会報やホームページが唯一の接点であり情報発信を充実していくことで、同窓生とのつながりを維持しようと役員・事務局一同努めております。

しかし、近年、会費納入率が低下しており、同窓会運営も厳しくなっておりますので、どうか同窓会活動の趣旨をご理解いただき、お力添えをお願いします。

**〈会費〉(1) 1年会員…… 2千円 (2) 10年会員…… 2万円
(3) 終身会費…… 6万円 (10年会費納入者は4万円) お願いします。**

〈納入手続き〉 会費納入の手続きは、右記のゆうちょ銀行、郵便局の「赤」の払込取扱票をご利用下さい。ご不明な点がございましたら、事務局 (0952-23-1253) または、ホームページ「お問い合わせはこちら」からご連絡下さい。

02		払込取扱票		通常払込料金 加入者負担	
口座番号 (右詰め記入)		金額		千:百:十:千:百:十:円	
017609		25635			
別添		佐賀大学楠葉同窓会		備考	
通		佐賀大学楠葉同窓会費 終身・10年・1年			
信		勤務先 (S・H・R 年入)			
頼		目 期		様	
人		目 附 印		料 金	
の		備考		備考	

住所変更 などの報告

同窓会会員名簿は、会員と同窓会、会員と大学、会員相互を繋ぐ資料として、また、大学が必要とする広報・統計資料として活用しています。個人情報、同窓会の財産として同窓会事務局で厳重に保管・管理を行います。

変更があった場合は、氏名、入学年度、住所、電話番号、勤務先を明記して、下記事務局に、電話・FAX、メールまたは、同窓会ホームページ「お問い合わせはこちら」からお知らせ下さい。

編 集 後 記

普通の生活を送れることがどれだけ有難いかを痛感しながら毎日を過ごしています。新型コロナウイルスの名前を初めて知ったのは1月だったと思います。そのときは「中国で新しい病気が流行っているみたいだなあ」程度でしたが、あっという間に日々の生活が変わってしまいました。

東京オリンピックが延期され、夏の甲子園も中止。佐賀ではパルーンフェスタが中止になり、佐賀大学は卒業式、入学式が中止で今は学内への入場も制限されています。全く想像していなかったことが現実に起きて、遠い世界の出来事だと思っていたパンデミックの怖さを初めて実感しています。

私生活ではコンビニなどの買い物はスマホ決済で行い、ネットショッピングの頻度も上がり現金を触ることが殆どなくなりました。またリモートでの会合にも参加し、今まで必要性を感じながら後回しにしてきたことが一気に前に進みました。仕事も含め、ここ数ヶ月で時代が数年分変化し、今後の生活は大きく変わっていくと思います。

起きてしまったことを嘆いても気持ちが減入ってしまうばかりなので、コロナ収束後の新しい働き方、新しい生活様式が良いものになることを期待して、今しばらくは控えめな日々を送りたいと思います。

坂本 裕三 (経済・昭62入)

発行 佐賀大学楠葉同窓会
佐賀市本庄町 佐賀大学菱の実会館内
TEL 0952-23-1253 FAX 0952-25-5700
E-mail : dousoukai@sadai.jp

発行者 江口 洋一 (経済・昭44入)
編集者 松尾 和俊 (経済・昭58入)
代表者 郵便振替 [01760-9-25635]